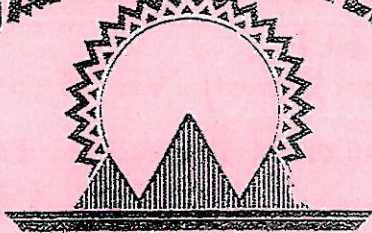


今日のこぼれ
今村直樹著

山陽堂だより 42 2013年^は巳年

2013年1月陸月



山陽堂書店

03-3401-1309

第27回

「山陽堂イコニク」

羽鳥書店 今村直樹著

「幸福な広告」CMディレクターから見た広告の未来

発売記念トークショー

「広告って、何だった？ 何だったけ!？」

CMディレクター 今村直樹 x 並河進^{コヒロ}

1月18日(金)19時~ 羽鳥2階にて

参加費1500円

宣伝会議とくま運営するホーテリサイト

「アトタリ」並河進さんのコラム、今年第一回め

のテストは 今村直樹さん^{以下}(アトタリ)

企業の誰か一人でもいいから、
一休となつて仕事をする。
それこそが広告。

一休感って、そんな大げさな言ひじゃなくて、
ちょっとしたことでできるもの。

昔は、広告会社の営業人の中に

「この人、クライアントでもよいのに、なんで

「幸福な広告」より
CMは、モノづくりだと
考えている。広告主の
メッセージや製品や企業の
情報か伝わるには、
目的は果せるは否かの
作りの熱気を正直に
映し出し、それがCMと
いう表現のパワーに
なるから不思議だ。
CMは、まさにCMとは
呼べない何かになっ
ていたとしても、他の
広告手段、他のメディア
にはない、人と幸福
にできるかあると
はくは信じている。
CMの未来は、
むしろCMが本来持っ
ていた力を呼び戻す
ものでありたいと、
クライアントである
はくは思う。

羽鳥書店

「幸福な広告」

2730円

この商品とこんなに好きなの?」みたいた人かいたと思うんです。
クライアントの想いと一休になつて、そういう人が一人いたって、その人を
頼りに、僕らはCMをつくっていくことができるよ。
好きって言うときは
① 大事になつたよ。

120年前の巳年の明治
26年。山陽堂は創業
3年め。文芸界が創刊
東京・日本橋に明治座
開場。流行としては
石碑の建立、写真入り名刺、
花合わせ、紙風船。
そして、総理大臣は
伊藤博文。
(出典: 山陽堂創業120年表)

2012年12月3日(月) ~ 21日(金) Gallery Noteより

「日さすよらのあとで」～今いはい人を静かに思う～

- * 日さすよらのまえに、皆がこの詩に本合えようように――。
- * 高橋さんの絵は、余白にめくもりを感じられるから見ているとあ、た、か、なるんだなあって思いました。
- * いかに素敵な空間が広がり、その「無」に惹かれる時間を過ごせました。
- * とてもせわしない目の前の風景に反して、また、何でも早くしようとするような現代の中で、見開き2ページに1行という言葉の少なさはとても新鮮でそこに込められた想いの深さを感じました。
- * 余裕がありませんでした。ここに来るまでは、日々を振り返ったり、忘れたのです。仕事以外の予定を入れることを極端に避けて、かみゆらに毎日を生きてはいたけれど、いつも間違っているような感覚で、不安で不安で仕方なかったんです。だから今日、ここに来ることで、島田さんの文章を読んだ時、「ああ、そうだった、私が編集者としてやりたいことって、こういうことだったんだって、素直におおきに思えました。空が青ければ青いほど、くもでゆく私の心に、少しお日様か、さしてきます。一冊で……一冊でも……から……」
さあ、今週も、かんぱううかひな。
- * 私は、私の周りの全てに絶望して死んでしまった人達のことを思いました。この世に生まれたことか、どんなにす……とか、分かうす……に……して……人達。(すみません、こんなことを書いて)この本の言葉がひびくようなほき方をみじかにしたいと、願います。
- * 大切な子を亡くしてしまった悲しみと後悔がなかなか消えずにそれどころか日か経つにつれて、とんとん増して、苦しい日々でした。この詩に逢えて、この絵に逢えて、よかったです。ありがとうございます。
- * たまたま、本当にたまたま立ち寄っただけ、レジの横に……ある本が……気に入っただけ、それだけのことで……た……た……た……去年の3月に……た……大切な大好きな祖父のことを思い出しました。
- * 4月に小学校の同級生が旅立ってしまった。下北沢一、東京一、いや日本一のパン屋でした。僕らは大ちゃんを忘れることはありません。た……え、パン屋が……な……う……とも。
- ~今いはい人を静かに思う~ 夏葉社の島田さんはそんな展示にしたいと言いました。ギャラリーにはそんな想いかた……さん……させて……いました。島田潤一郎さん、高橋和枝さん、どうもありがとう……しました。